



6月 調布幼稚園だより

令和6年5月30日



『主体的な遊びと一斉活動の意義』

園長 山形美津子

調布幼稚園の中庭には年長組が田植えをした稲が根付き、青々として初夏を思わせる風景があります。年少組が育てているエダマメの芽や年中組が植えたトマトの苗なども順調に育っています。「こどもの畑」では、ジャガイモが花を付け、サツマイモの苗もしっかりとしてきました。様々な栽培物の生長に園内は活気付いています。

さて、本園は「好きな遊びの時間（主体的な遊び）」と「一斉活動」の時間の両方を大切にしています。どちらも子どもたちにとってはとても大切な時間です。好きな遊びの時間では、一人一人の子どもに興味・関心に応じて遊びが進められていきます。遊びの世界では、子どもたちは周りのことが目に入らなくなるほど、一つのことに熱中します。これは、遊びというものは他人事ではなく子どもたちの意欲に支えられた主体的なものだからです。

「好きな遊び」では、年少組の入園当初はブロックやままごとなど、既成の遊具で遊んだり、先生が段ボールで作った車や電車、運転のハンドルなどで遊んだりもします。友達との会話も段々と増えていきます。

年中組になると、遊びに必要なもの（例えば、ピザ、おにぎり、ハンバーグ等）を廃材や紙などを使って作り、遊びに使います。自分たちで作った喜びもあり、手先の技能を高めることにもつながっています。作ることも遊びのひとつになっています。

年長組になると、自分で考えたり、試したり、工夫したりという要素が強くなります。レストランごっこがしたい、お店屋さんを作りたい、海賊になりたい、警察官になりたい、お姫様になりたいなど、やりたいことがたくさん出てきます。その遊びをするためには何が必要かを考え、工夫して作っていきます。作って遊ぶことを繰り返す中で、友達とのかかわりが一層深まっています。このように年齢によって「好きな遊び」の中身はずいぶん違います。

どの学年も担任は子どもたちの様子を見ながら、活動が持続し発展できるよう環境を構成したり、材料を用意したりしています。教師の援助の下で子どもたちが主体性を発揮しながら活動できるように配慮しています。

一斉活動では、クラスや学年のみんなで活動に取り組みながら、ルールを理解したり、協働して物を作り上げたり、今まで経験したことのないことを経験するなど、子どもたちの経験の幅を広げていきます。また、それぞれの年齢に合わせて運動遊びやゲーム遊び、製作（季節のものや部屋を飾るものなどを作る）、栽培活動などをします。日本の文化を味わう行事ではその話を聞いたり、関連のものを作ったりもします。

このように、幼稚園の生活では、主体的な遊びと一斉活動の両方の意義を踏まえて教育活動を進めています。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願ひ致します。

＜調布学園の創立について＞

6月5日は調布学園の創立記念日です。大正15年（1926年）、「調布女学校」と「調布幼稚園」として現在の中中部・高等部の場所に設立されました。9月1日の開校式兼始業式に集まったのは女学校の生徒11名、園児4名だったそうです。幼稚園は当時の細川武子園長先生ともう一人の教員と2名で子どもたちの保育をしたそうです。その後、9月末には園児12名、年末には20名ほどになったそうです。少人数ならではの家庭的な雰囲気の中で保育が進められたそうです。

その後、昭和4年に火災で校舎を焼失するという災難に見舞われたり、第二次世界大戦では休園するという幾多の困難を乗り越え、今年創立98年を迎えた調布学園、調布幼稚園です。2026年には100周年を迎えます。これからもいつまでも地域の子どもたちが集う幼稚園であり続けるよう努力してまいります。

6月の目標

全学年

- 身近な初夏の自然や、梅雨の時期の気象に関心をもったり、栽培物の世話をしたり、収穫の喜びを味わったりする。
- 梅雨の晴れ間を活用し、園庭やグラウンドで教師や友達と体を思い切り動かし心地よさを味わう。
- プールでの約束を守り、安全に遊ぶ。
- 水の心地よさを感じ水に親しみ、水遊びを楽しむ。

年少組

- 同じ場にいる友達に親しみをもつ。
- 担任に親しみをもち学級のみんなでする活動を楽しめるようになる。
- 自分のやりたい遊びを見付け、自分なりの楽しみ方で繰り返し遊ぶことを楽しむ。
- 生活に必要なことが分かり、衣服の着脱等を自分で行おうとする。

年中組

- 担任や気の合う友達とかかわりながら、自分のやりたい遊びを楽しむ。
- 好きな遊びの中で、身近な素材を使って遊びに使うものを作ったり、友達と同じ動きをしたりして楽しむ。
- 好きな運動遊びに楽しんで取り組む。
- ダンゴムシ、アリ、チョウなどの身近な生きものに興味をもつ。
- 色水遊びで、混色を楽しんだり、廃材で作った舟を浮かべたりするなど、水を使った遊びを楽しむ中で、素材の性質に気付く。

年長組

- 友達とのつながりを深め、思いを伝えたり、相手の思いも聞いたりしながらイメージをもって遊びを進める。
- 1日の園生活に見通しをもち、行動する。
- 試行錯誤して遊びや水遊びを進める中で、様々なことに気付いたり、友達と共感したりして楽しむ。

調布幼稚園の自然と子どもたち

6月 「オタマジャクシさんのお水、お湯になると死んじゃうの？」

顧問 外崎 明美

朝、登園時に身近な生き物を見たり触れ合えたりするように金魚やオタマジャクシ、カタツムリ、ドジョウ、アゲハの幼虫などを出しています。このところ朝は涼しいのですが、気温が徐々に上昇し日差しも強くなってきました。いつもは日を少しあててから中にしまいますが、ある時、油断していて時間が長くなってしまいました。「オタマジャクシさんのお水がお湯になっちゃう」と言いながら仕舞っていると、年少さんが「何しているの？」と寄ってきました。そばに一緒にいた事務員さんと「オタマジャクシさんのお水があったかくなってお湯になると死んじゃうからね」「もう中に入れないとね」と言うと、「オタマジャクシさんのお水がお湯になると死んじゃうんだ」と、オタマジャクシや金魚などが入っているケースを「わっしょい！わっしょい！」と一緒に持って中に入れてくれました。

小さな生き物の命を大事に思う心が、小さな年少さんの心にもはぐくまれていて嬉しく思ったものでした。

